

③ 横浜と少年サッカー

■堀内正明

1 少年サッカーの歴史

二〇〇二年ワールドカップサッカー大会決勝戦が横浜で開催されることは、非常な喜びであり、二十一世紀を担う少年サッカーにとって大きな夢でもあり、これからの人生に意義のあるビッグイベントになるに違いない。

振り返れば、東京オリンピックの開催とメキシコオリンピックで銅メダルを得た日本サッカーが少年サッカーを呼び起こした幕開けではないだろうか。今日横浜には百四十余の少年サッカーチームが活動しており、多くの歴史と経験の積み重ねがあったことを忘れてはならない。少年サッカーをとりまわっている少年委員会も創立してから三十二年を迎えた。横浜の少年サッカー大会の公式大会三行事（横浜少年サッカー大会市長杯、横浜市春季少年サッカー大会、横浜国際チビッコサッカー大会）の運営を確実にこなし、その活動はあらゆる分野から評価されている。二〇〇二年ワールドカップサッカー大会誘致に関しても、横浜スタジアムで数度2002の人文字を少年サッカーマンで表現した。

2 横浜少年サッカーの国際性

横浜少年サッカーの特色の一つとして、国際交流試合が大きな意義をもって無理なく行われていることがあげられる。YES'89の横浜友好都市国際少年サッカー大会では、サンディエゴ、ボンベイ、バンクーバー、オデッサ、コンスタンツァ、上海、メルボルンの各都市から少年チームを迎え、横浜市の五チームと試合を行った。この時は、市内の各チームはそれぞれの都市のチームをホームステイの形で受け入れ、草の根の国際交流を行った。また、その後、ボンベイ、オデッサ、マニラ、バンクーバー、上海、ソウルへ遠征するなどして交流を深めている。

三行事の一つ、横浜国際チビッコサッカー大会は三大会の中で一番古く、横浜の少年サッカーの歴史といえる。国際都市横浜にふさわしく、外国の少年たちが一緒に参加する大会で、一発勝負のトーナメントではなくリーグ戦で試合を運営している。残念ながら、ここ数年、YC&AC、セントジョセフ等が参加していないが、参加していた頃は、グラウンドの提供を受け大いに協力していた。大会の当日、セントジョセフの関係者が朝早くからグラウンドの雨水を整理していた光景が今でも新鮮に思い出される。朝鮮初級・中級学校との交流も、かなり長い歴史を

持ち、大会への参加はもとより、初級学校とは日朝親善サッカー大会で交流試合も続けている。

大会をこなすのには、グラウンドのやりくりに苦勞するが、リーグ戦方式を行うことにより、数試合を楽しめることが横浜の少年サッカーの大きな特色でもある。

3 ボランティアで支えてきた少年サッカー

百四十余チームの内、九〇パーセント近いチームが、お父さんコーチで支えられており、ボランティアの結集だと言つて過言ではない。今でこそ、横浜F・マリノスプライマリーをはじめとしたサッカー塾的なクラブも増えたが、初期には、ほとんどのチームの指導者は普通の社会人で、サッカーが好きで子供好きで、また、子供がサッカー好きのために自分もサッカーを習い覚え始めた人たちが、横浜少年サッカーを支えてきたのである。たえず情熱をもってクラブ運営に頑張っている方々に深く敬意を表したいと思う。

新春指導者懇親会は、指導者等約二百名が一堂に会し、伊藤清春元旭高校サッカー部監督、鈴木保全日本女子サッカー監督、前田秀樹元日本代表、川淵三郎Jリーグチエアマン、

- 1 少年サッカーの歴史
- 2 横浜少年サッカーの国際性
- 3 ボランティアで支えてきた少年サッカー
- 4 育った多くの名選手

1990年オデッサの黒海の海岸にて：左から2人目中村俊輔（小学6年生当時）



セルジオ越後日本サッカー協会前強化委員、加茂周元日本代表監督、西野朗アトラクタ五輪代表監督、岡野俊一郎現日本サッカー協会会長、長沼健元日本サッカー協会会長等蒼々たるメンバーをお迎えし、それぞれご講演を頂き、会を重ねてきた。今年は、木村和司氏、望月三起也氏などをお迎えし、パネルディスカッションを行った。

横浜少年サッカーを取り巻く環境はどこにも負けないものがあるが、グラウンド不足にはかなり厳しいものがある。横浜市には少年野球専用のグラウンドがあちこちに点在しているにもかかわらず、少年サッカー専用グラウンドはない。野球がポピュラーなスポーツとして親しまれてきた歴史は十分理解しているが、交通、通信はじめあらゆる分野で世界とのつながりが高速化した時代を迎えた中で、世界で一番活発で人気のあるスポーツ「サッカー」を、ワールドカップ開催都市である横浜市が積極的に振興して欲しい、と考える。ワールドカップの開催を機に記念施設として少年サッカーグラウンドの建設をお願いしたい、と思う。管理・運営は、横浜サッカー協会少年委員会が全面的に協力することとおしまない。少年サッカーマンの憧れのメッカとして是非実現することを切望する。

4 育った多くの名選手

近年、トレーニングセンターと言われる組

織があちこちに誕生したが、横浜では早くから育成部を組織し、優秀選手の育成とサッカーの普及にも力を注いできた。Jリーグもたくさん生み出された。この間、中村俊輔をはじめ、多くの選手が立派に花を咲かせてくれた。先輩が築いた歴史、レールに乗って、現在の頂点中村俊輔選手が旗手となって横浜の少年サッカーの名を世界にPRして欲しいと願う。

少年サッカーの指導、育成を通じ、個人としてそれぞれが成長し、立派に結実することを何時でも念じているが、時として実力過多を過信してしまう、俗に言う天狗となり脱落していく少年が出ることが残念だ。これもテイクケアに欠けていることに要因があると思うので、これからはこうした面にも注意していきたいと思う。また、中には、保護者の過保護、思い過ぎがだめにしたケースも多々目になっている。個人的見解だが、すばらしいトップ選手は、良き家庭環境、思いやり、やさしさ、加えてすばらしい指導者の指導、育成から誕生するものと信じている。

最後になったが、二〇〇二年横浜開催は、間違いなく成功し、その名が広く世界に発信されるだろう。その一翼としての横浜少年サッカーは、日々努力し本番を迎えたいものだと願っている。

△ 社団法人横浜サッカー協会少年委員長▽

横浜国際総合競技場にて：少年サッカーチームによる人文字

